

チノ語悠楽方言の名詞句構造とその周辺*

林 範彦

1. はじめに

チノ語（基諾語；Jino, Jinuo）は中国雲南省景洪市基諾郷および補遠山地区に居住するチノ族（基諾族）の話す言語である。系統的にはチベット・ビルマ語派ロロ・ビルマ語支に属する。方言としては大きく悠楽方言と補遠方言に分かれる。チノ族の人口は23,413人（2010年の人口統計）であるが、流暢な話者人口の詳細は不明である¹。本稿では悠楽方言のデータを用いる²。以下、本稿では「チノ語」と略する。



図1 チノ族居住区 [悠楽方言] (加藤 2000 を筆者修正)

* 本稿は2013年7月7日に京都大学人文科学研究所で行われた第1回TB+会議で口頭発表した内容に基づいている。同会議を主催された池田巧教授をはじめ、ご参会の研究者から多くの貴重なご意見をいただいた。ここに記して謝意を表したい。なお、本稿におけるすべての誤りは当然筆者個人に帰する。

¹ Bradley (2007) および Endangered Language Project では悠楽方言の話者は10,450人未満、補遠方言の話者は1,000人未満であると推定している。悠楽方言について Endangered Language Project は2014年12月の時点で Severely endangered (深刻な危機に瀕した状態) の評価を与えている。

² 本稿では主として2005年から2014年までに現地調査により得られた悠楽方言バカ方言のデータを用いる。例示するデータは自然発話のものを中心とするが、記述の網羅性のために作例データもあわせて使用する。自然発話の例はNU、作例データについてはELの表示を日本語訳の末尾に付す。調査協力者は主にW氏（1980年代生まれ；女性）、Y氏（1950年代生まれ；女性）である。本研究は日本学術振興会科学研究費補助金（ないし補助事業）および三島海雲記念財団の援助を受けている。また現地調査については中国雲南民族博物館（謝沫華館長・高翔氏）・西雙版納州民族宗教局（楊紹華氏）ほかの協力も得た。ここに記して謝意を表したい。

類型論的にはチノ語はSVあるいはAPVの語順をとる。また、名詞修飾表現については、形容詞は名詞に後置され、連体節（いわゆる関係節）はデフォルトでは名詞に前置される。チノ語は周辺諸言語に比して膠着性の高い言語である。

本稿ではチノ語の名詞句構造とその周辺について記述する。本稿は以下の手順で論じる。第2節ではチノ語の名詞句構造の概要を示す。また、内部に見られるSlotについても概説する。第3節と第4節では名詞句構造の外的関係を表す表現を取り扱う。第3節では所有表現を取り上げる。第4節では名詞句と連体節の関係を記述する。第5節で結論を述べる。

なお、チノ語の先行研究としては主として蓋（1986）、林（2009）、蔣（2010）などがある。本稿はチノ語の名詞句構造を類型論的な観点³から記述し、林（2009）を修正・補完する⁴。蓋（1986）と蔣（2010）は本稿とは悠楽方言の異なる変種を扱っているが、本稿の記述との重要な差異は注で言及する。

2. チノ語の名詞句の内部構造

2.1. 名詞の基準と特徴

まず、品詞としての名詞の基準を定める。チノ語の主要な内容語の品詞としては名詞・動詞・形容詞がある⁵。これらは(a)語根に対して否定辞が前接しうるか、(b)生産的な重複法が見られるか、の2点により峻別されうる。表1を見られたい。

	N	V	Adj
(a) 語根への否定辞の前接	—	+	+
(b) 生産的な重複法	—	—	+

表1 チノ語の主要な内容語の品詞認定基準

表1に掲げたように、チノ語の名詞は(a)、(b)の特徴を持ち合わせていない。これにより、名詞は動詞と形容詞から排他的に決定される。このようにして決定されたチノ語の名詞は天候や衣食住などに関する具象物、地名・人名、動物相・植物相、親族名称、一部の抽象概念などの意味範疇に集中的に分布する。

チノ語の名詞の形態的構造として特に注意すべきなのは、a-接頭辞が語根に付

³ 名詞句構造の類型論的な概説のうち、近年のものとしてDryer (2007) やDixon (2010) が挙げられる。また所有表現の研究としてはAikhenvald and Dixon (eds.) (2013) が、アジア諸言語の名詞化研究としてはYap (et al. eds.) (2011) がある。東南アジア諸語の名詞句構造の問題を取り扱ったものに三上（編）(2006) がある。

⁴ 基本的な分析は林（2009）のそれを保持しているが、i) 後置詞を2群に分類し（本稿2.2.5節参照）、ii) 後置詞=e44を「名詞句拡張子」とする分析（本稿3.3節参照）は林（2009）から修正を施した主な部分である。また(ii)についてはHayashi（2010）からも修正している点に注意されたい。

⁵ このほかの内容語として副詞がある。表1に掲げた基準では、チノ語の副詞は(a)、(b)ともにその特徴を持っていないため、名詞と形態法上区別されないこととなる。チノ語の名詞と副詞は、前者が項構造に含まれうるのに対し、後者は含まれないことや、後者は動詞を修飾しうるのに対し、前者はそれが不可能なことなどが区別の基準として用いられる。

加されているものが多いことである⁶。ただし、名詞は項構造に含まれるなどの統語的基準によっても決定される。そのため、a-接頭辞が付加されていないものも名詞となりうる。

(1) a. [a-接頭辞の付加されたもの]

a55pu44「父」、a55mɔ44「母」、a55me55「ご飯」、a33la55「枝」、
a55tu44「つぼみ」、a33no55「土」、a55khrɔ55「川」、a33ø55「熊」、
a55mɯ55「毛」など。

b. [その他の名詞の例]

mjo55「草」、vɔ55「竹」、ja55tha55「岩石」、u33tha55「山」、ŋa33zɔ55
「鳥」、pu55xɔ44「蟻」、to55m̥i55「しっぽ」、vu55khe55「頭」、
khju55pe55「喉」など。

音節構造としては2音節名詞が一般的である。単音節名詞や3音節以上の名詞も存在するが、2音節名詞に比べて数は少ない。

また、チノ語の名詞の下位分類として代名詞が存在する。チノ語の代名詞は日本語の代名表現などと異なり、閉じた集合をなす。以下の表のように、1人称・2人称・3人称の各人称に対して、単数・双数・複数の区別がなされる。そして、人称・数に応じて、主格形・所有格形・斜格形の区別がある。表2にチノ語の人称代名詞の一覧を示す。

	単数			双数		複数		
	主格	斜格		主格	斜格	主格	斜格	
		所有格	対格				所有格	対格
1人称	ŋɔ42	ŋɔ35		a33ni55/ ŋa55ni55	a33ni42	a33ŋu55 (INCL) ŋa55vu55 (EXCL)	a33ŋu42/ ŋu55 (INCL)	
	ŋɔ33e55	ŋɔ35	ŋa55ve55 (EXCL)					
2人称	nə42	nə35		ni55ŋ44	ni55ŋi42	ni55ju44	ni55ju35	
	nɛ35	nə35	ni55vɛ55				ni55ju35	
3人称	khɣ42/ thu42	khɣ35/a33nə35		khɣ33ni55	khɣ33ni42	khɣ33ŋa55/ jo33ŋa55	khɣ33ŋa42/ jo33ŋa42	

表2 チノ語の人称代名詞の一覧

⁶ 傅 (1996) は中国のチベット・ビルマ諸語におけるA-接頭辞をもつ語彙について二次資料を用いて調査した。その結果、A-接頭辞が付加された語彙をチノ語が最も多く有していることが判明した。

2.2. 名詞句構造の概要

2.1 節で設定した名詞を包摂する名詞句構造を模式化すると、図2の通りになる。

Slot 1	Slot 2	Slot 3	Slot 4	Slot 5
指示詞	名詞 (- 接尾辞)	形容詞	数詞 - 類別詞 (- 接尾辞)	= 後置詞

図2 チノ語の名詞句構造のモデル⁷

意味的には Slot 1 と Slot 3, Slot 4 は Slot 2 を修飾する関係にあると言えよう。しかし、統語的には Slot 1, 2, 3, 4 はそれぞれ並列関係にある⁸。すなわち、Slot 1, 2, 3, 4 のすべてが共起しうる場合もあれば、いずれか1つの Slot のみの生起も許される。そして Slot 1 ~ 4 の生起に対して Slot 5 の後置詞が後接しうる。なお、以下の説明で Slot 2 に入る名詞を「主名詞」と呼ぶことがある。(2) に1例を示す。

- (2) khɣ44 kɔ55tɔ44 a33ŋɣ55 thi55-khrce42
 あれ 服 赤い 1-CLF
 あの一枚の赤い服

(2) は Slot の 1, 2, 3, 4 が並列した例である。Slot 1, 3, 4 が Slot 2 を意味的には修飾していると思われるものの、各 Slot は統語的には並列構造をなしている。khɣ44 「あれ」も、kɔ55tɔ44 「服」も、a33ŋɣ55 「赤い」も、thi55-khrce42 「1枚」もいずれも単独で名詞句を構成しうる。

それでは以下で各 Slot につき、概説を施す。

2.2.1. Slot 1 : 指示詞

チノ語の代表的な指示詞は以下の表3にまとめられる。

	近称	遠称1系	遠称2系
直格形	ɕi44	khɣ44	lɔ55
斜格形	ɕi35	khɣ35	lɔ35

表3 チノ語の代表的な指示詞

近称の形式は発話者と受話者の双方が視認（知覚あるいはイメージ）でき、主として発話者側に距離的に（あるいは心理的に）近い事物に対して用いられる。一方、遠称の形式は1系・2系ともに発話者と受話者の双方から距離的に（ある

⁷ この名詞句構造のモデルについては蓋（1986）も蔣（2010）も示していない。

⁸ 特に主名詞の後ろにおかれた要素が「統語的に並列関係」にある点は第4節で「同格関係」であると分析される点に注意されたい。

いは心理的に) 遠い事物に対して用いられる。このうち、遠称 1 系は発話者・受話者の双方が視認できる事物に用いられるのに対し、遠称 2 系は発話者・受話者から視認できない事物に対して用いられることが一般的である。

直格形は一種のデフォルトの形式と考えられる。すなわち、主語や目的語としても、また名詞句構造の Slot 1 にも生起しえる。一方、斜格形は直格形と声調が交替している。これは目的語として生起した際にそれを明示化するために用いられるほか、他の名詞を修飾する際や場所を標示する際にも現れる。

以下、指示詞の用いられた例をいくつか挙げておく。

- (3) **ci44** khɔ55tɕu44-a44?
これ 何-Q
これは何ですか。(EL)
- (4) khɔ42 m33-a55 ŋu33-xɔ42, **ci35** tho55-nu55 + lɔ55 = ɛ44
3SG.NOM 要る -PART COP-COND ここ PROH- 戻る + 来る = POSS
ŋɔ42 **khɔ33-lo33**⁹ m̩33-mɛ35.
1SG.NOM あれ -ように 言う -PAST
もし彼が (今の女友達を嫁として) 要るといふなら、ここ [家] に戻って
くるなど言ったんだ。(NU)
- (5) **khɔ44** a33o55 + pɔ44 = lɔɛ44 tʃa35-tɔ44-a44.
あれ 下 + ほう = も ある -EXP-PART
(貨幣の単位は) その [一銭より] 下にもある (NU)
- (6) ŋɔ42 **khɔ35** m33-mɛ42.
1SG.NOM あれ .OBL 要る -FUT
私はあれがほしい。(EL)
- (7) **lɔ55 = lɔɛ44** su55-a55, tʃaŋ55jin33 = lɔɛ44.
あれ = も 知る -PART 張雲 (PSN) も
あれ [= 張雲] も (薬草のことを) 知っているよ、張雲も。(NU)
- (8) khɔ33mɛ44, **lɔ35** tʃhao33jɔ33 tʃhɔ33-ŋ55 = a55 pha55 + jɔ35-mɛ55.
そして あれ .OBL 草薬 10-CLF=LOC 貼る + よい -PAST
そしてあそこの草薬 [草を原料とした薬] を 10 日貼れば、良くなった。
(NU)

⁹ 接尾辞 -lo が後接する際、khɔ44 も 33 調に変調することが少なくない。

2.2.2. Slot 2 : 名詞 (- 接尾辞)

名詞自体の特徴についてはすでに 2.1 節で述べたので、ここでは繰り返さない。ここでは名詞に直接付加されうる接尾辞に焦点を当てる。その一覧としては以下の (9) のとおりまとめられる。

- (9) **-ma** (複数), **-pu** (程度), **-lo** (「~のように」), **-tʃhə** (「~ごと」)

ここで注意が必要なのは、**-ma** とそれ以外では振る舞いが異なる点である。**-ma** は図 2 のスキームの中に置かれ、数量詞句や後置詞を生起させうる。一方で、**-pu** や **-lo** などは名詞句に接辞化されると、全体では副詞化されると考えられる。そのため、その後ろに数量詞句などを後置できない。以下で各接尾辞が用いられた例を挙げておく。

- (10) a. **lɔ33si55-ma55** b. **pa55kha42-ma55**
 先生 -PL パカー (PLN)-PL
 先生たち パカー村の人たち

- (11) **a55ʃɔ44lɔ44-ma55**
 足の不自由な人 -PL
 足の不自由な人など

- (12) **ŋɔ42** **ji55ʃi55** **a55tʃen44-pu55** **pɔ55 + pɔ44-nœ44**.
 1SG.NOM 昔 アチェン - ほど 太い + 太い .RDP-SFP
 私は昔アチェンくらい太っていた。(NU)

- (13) **ɕi44-lo44**
 これ - のように
 このように

- (14) **ʃɔ55-tʃhə35 = ε55¹⁰** **koŋ55tsi55** **tʃa35 = ε55-nœ44**.
 月 - ごと =POSS 給料 ある =POSS-SFP
 (彼らは) 月ごとに給料はあるけどね。(林 2009: 47) (NU)

-ma の振る舞いの特異性として、これを含む名詞句全体が目的語になるなど、斜格の支配を受けた時、42 調に変調することが挙げられる。

¹⁰ 本例における **=ε55** は副詞化の機能を持っていると考えられる (Hayashi 2010)。

- (15) $na33 = la55$ $ma33mo55-ma42$ $kjao44 = la55$ $thi55$
 2SG.NOM=すなわち 大きい-PL.OBL 教える =すなわち 少し
 $no44-to44 = \epsilon44$.
 聞く -EXP=POSS
 あなたも (学年の) 大きい (子) たちを教えたら, (彼らも) 少しは (授業を) 聞くよ。(NU)

さらに注意すべきは, $-ma$ は形容詞引用形や後置詞 $=\epsilon44$ にも接辞化されうる。このことから, $-ma$ が Slot 2 に配置される接尾辞ではない可能性もある。今後詳細な分析を必要とする¹¹。

- (16) $kh\gamma35$ $a33x\gamma55-ma55 = \epsilon55$ $tu33 + lo33-m\gamma44$.
 その 遠い -PL=POSS 読む+来る -PAST
 それらの遠い (ところの学生) たちは勉強にしにきた。(NU)
- (17) $ci44 = \epsilon44-ma55 = \gamma44$ $si35fan35 = a44$ $tu33-m\epsilon44$.
 これ=POSS-PL=EMPH 師範学校=LOC 読む -SFP
 ここの (人) らは師範学校で (教師になるための) 勉強をする。(NU)

2.2.3. Slot 3 : 形容詞

チノ語の形容詞に関する詳細は Hayashi (2014) を参照されたい。ここでは名詞句構造を記述する際に必要な概略を示すにとどめる。

チノ語の形容詞の引用形は [接頭辞 - 語根] の形式をとる。接頭辞は $a-$, $la-$, $jo-$ のいずれかで, いずれも名詞化の機能を併せ持つ。語根は動詞的性格を有している。つまり, 形容詞の引用形は形態統語的には出動名詞的な振る舞いを見せる。ただし, 否定辞などその他の接頭辞が付加される場合は $a-$, $la-$, $jo-$ の接頭辞の代わりに, 語根に直接付加される。そのため, 引用形以外の形式は動詞と同じ振る舞いを見せることとなる。

形容詞は名詞句構造において意味的に修飾の機能を有する。形容詞の引用形が名詞修飾を行う際, 名詞に対して後置される。図 2 においては名詞句構造の Slot 3 に配置される。

- (18) a. $ko55to44$ $a33n\gamma55$ b. $ko55to44$ $a33n\gamma55n\gamma55$
 服 赤い 服 赤い.RDP
 赤い服 (EL) 真っ赤な服 (EL)

¹¹ (18) の $=\epsilon55$ は 3.3 節で述べるように, 所有標識というよりも「名詞句拡張子」として考えることもできる。下線部全体を主名詞と再解釈すれば, $-ma$ は拡張された名詞に後接しているだけであると見なせる。詳細は 3.3.3 節を参照。

形容詞が二重に名詞を意味的に修飾することも可能である。

- (19) khɣ44 kɔ55tɔ44 la55xɣ44 a33ŋɣ55 thi55-khrɔc42
 あれ 服 大きい 赤い 1-CLF
 あの1枚の大きくて赤い服 (EL)

形容詞の否定形は2種類の語順を許す。1つは引用形と同様、名詞の直後に置かれるパターンである。もう1つは名詞の直前に置かれるパターンである。

ここで注意すべきは、否定辞 *mɔ-* ~ *ma-* は動詞性をもつ語根に前接する。つまり、[否定辞 - 語根] は動詞性をもった要素である。そのため、名詞修飾を行う際には、関係節標識である *-mɣ* を生起させる。

- (20) kɔ55tɔ44 mɔ33-ŋɣ55-mɣ55
 服 NEG- 赤い -REL
 赤くない服 (EL)
- (21) ma33-ŋjo55-mɣ55 a33tsu55
 NEG- 高い -REL 木
 高くない木 (EL)

また漢語の語順の影響で、形容詞引用形でも意味的に修飾する際、名詞の直前に置かれる場合がある。その場合は関係節標識である *-mɣ* を生起させる。

- (22) a33ŋɣ55-mɣ55 kɔ55tɔ44
 赤い -REL 服
 赤い服 (EL)

以上から見ると、形容詞引用形は名詞修飾の際に Slot 3 に置かれるのが基本である。しかし、否定形を含めた場合や漢語からの影響を考えると、必ずしも Slot 3 に入りうると言えない。この点を含めれば、将来的に名詞句構造から独立させ、形容詞の Slot を外す必要があるかもしれない。

2.2.4. Slot 4 : 数詞 - 類別詞 (- 接尾辞)

Slot 4 はチノ語の数量表現を担う。数詞は一般的に基数詞と序数詞（すべて漢語からの借用語）に分かれるが、この Slot には基数詞しか入らない。数詞は数え上げの（「いち、に、さん、し、…」のような）場合を除いて、一般に単独で数量表現を構成できない。必ず類別詞を伴う。

チノ語の数詞は十進法に従う。以下、例を示す。1～9までは55調で、10は42調で読まれる。一般的に11～999までの2音節数詞は/33-55/で、3音節数詞は/33-55-44/で読まれる。4音節以上は初頭2音節を単位とし、/33-55, 33-55/ (4音節)、/33-55, 33-55-44/ (5音節) のように読まれる。1,000と10,000 (およびそれ以上の単位は) 漢語からの借用語を用いる。

- (23) thi55 「1」, η55 「2」, sə55 「3」, li55 「4」, ηə55 「5」, khjo55 「6」, ʃi55 「7」, xe55 「8」, kju55 「9」, tshɣ42 「10」, tshɣ33thi55 「11」, tshɣ33η55 「12」, ..., η33tshɣ55 「20」, sə33tshɣ55 「30」, ..., kju33tshɣ55kju44 「99」, thi33çə55 「100」, thi33çə55thi44 「101」, ..., thi55tshen44 「1,000 (< Ch. 千)」, ..., thi55wan44 「10,000 (< Ch. 万)」

ここで言う類別詞は純粹に名詞のクラスを規定するもの (以下「プロパー類別詞」) と、量を指示するもの (以下「量詞」) を含む。プロパー類別詞の一部は名詞の最終音節からの派生により構成される (「出名類別詞」)。以下、表4および表5に例を示す。

類別詞	類別対象	類別詞	類別対象
-ləe	多くの名詞	-su	瓶
-ε	～軒 (建物や家)	-ko	漢語由来の一般名詞 [< Ch. 个]
-kɣ	部屋	-tʃaŋ	車 [< Ch. 张]
-khre	衣服・道具	-pen	本 [< Ch. 本]
-li/ -lai	人間	-pa	道具 [< Ch. 把]
-çə	人間	-pao	袋, パック [< Ch. 包]
-mə	動物	-xə	(薬や砂糖などの小型の) 箱 [< Ch. 盒]

表4 プロパー類別詞の例 [Ch. は漢語由来を指す]

類別詞	類別対象	類別詞	類別対象
-pə	稲わら, 草 (< ku55pə44 「稲わら」)	-khu	髪の毛 (< tshɛ55khu55 「髪の毛」)
-po < I >	花 (< a55po44 「花」)	-tso < I >	薪 (< mi55tso55 「薪」)
-po < II >	せいろ (< mja55po44 「せいろ」)	-tso < II >	家 (< tso33 「家」)
-pu	布団や紙類 (< pə33pu55 「布団」)	-su	果物, 球形のもの (< a44su44 「球」)

-pu	手 (< la55pu44 「手」)	-tɕhø	矢 (< a55tɕhø44 「矢」)
-pja	ほうき (< ja44pja44 「ほうき」)	-vu	卵 (< a33vu55 「卵」)
-phi	ひも (< a55phi44 「ひも」)	-tsu	粒 (< a33tsu55 「種」)
-phu <I>	椀 (< lo33phu55 「椀」)	-phiŋ [Ch.]	瓶 [< Ch. 瓶]
-phu <II>	村 (< phu44 「村」)	-thoŋ [Ch.]	桶 [< Ch. 桶]
-phrø	板 (< a44phrø44 「板」)	-kaŋ [Ch.]	かめ [< Ch. 口缸]
-kɣ	椅子 (< thɣ33kɣ55 「椅子」)	-tsao [Ch.]	かまど [< Ch. 灶]
-kho <I>	道 (< jɔ55kho55 「道」)	-tɕhao [Ch.]	橋 [< Ch. 桥]
-kho <II>	歌 (< krø33kho55 「歌」)	-xu [Ch.]	つぼ [< Ch. 茶壺]

表5 出名類別詞の例 [Ch. は漢語由来を指す]

上記のほかに、表6に示す回数を表す単位（以下「回数詞」）や度量衡の単位（量詞）が類別詞と同じ位置に生じうる。注意すべきは、回数詞の場合、主名詞を一般に持たない。また、[数詞 - 回数詞]の構造は全体として項構造に組み込まれず、一般に述語を修飾する。

回数詞	カウントの対象	量詞	類別対象
-la	「～回」、多くの動作・行為	-lo	「～両」(約 50g)
-tø	「～回」、車を動かす回数	-pi	「～100斤」(約 50kg)
-tso	「～回」、薬を飲む回数など	-pə	列、並び
-kho <I>	「～口」、ことばを発する回数、飲み物を飲む回数	-tʃu	グループ
-kho <II>	「～すくい」、手ですくう回数	-ki [Ch.]	「～斤」(約 500g, <斤)
-lo	「～か月」、(< pu55lo44 「月」)	-koŋ33tɕin33 [Ch.]	～kg (< 「公斤」)

表6 回数詞および量詞の例 [Ch. は漢語由来を指す]

以下は類別詞が用いられた例である。

- (24) $\eta\alpha 55$ -**lai35**, $khjo 55$ -**lai35**, $\int i 55$ -**lai35** $l\alpha 33 = \epsilon 55$ - $m 55$.
 5-CLF 6-CLF 7-CLF 来る =POSS-PAST
 (この前ここチノ郷にもアメリカ人が) 5人, 6人, 7人と (ぞろぞろと)
 来たよ。(NU)

- (25) $\eta\alpha 33$ $s\alpha 55$ $thi 55$ -**suu55**
 バナナ 1-CLF
 一本のバナナ (林 2009: 53) (EL)

回数詞が用いられた例も挙げておく。

- (26) $thi 55$ -**l\alpha 44** $nu 35 + lu 33$ - $jo 33$ - $je 42$.
 1-CLF 戻る + 来る -OBLIG-HS
 (彼は軍隊に入ったけれど) ひと月で戻ってくるらしいよ。(NU)

Slot 1 と Slot 4 のみが共起し、名詞句構造をなす例も多い。

- (27) $\epsilon i 44$ $thi 55$ - $kh\alpha 55$ $t\epsilon \epsilon 42$ - $pja 33 + ja 42$.
 これ 1-CLF すぐく -言う + 難しい
 この一言は舌がもつれる (NU)

数量詞句においてやや注意しておかなければならないのは、接尾辞 - $t\epsilon \epsilon$ 「～くらい」の存在である。これは数量詞句全体の後にも (28), 数詞の直後にも現れ (29), 概数を表す。

- (28) $s\alpha 33$ - $ki 55$ - **$t\epsilon \epsilon 35$** $t\epsilon \epsilon 33$ - $\alpha 55$ - $n\alpha \epsilon 44$.
 3-CLF-くらい 余る -PART-SFP
 3斤くらい余った。(林 2009: 55)

- (29) $\eta i 33$ $\epsilon \alpha 55$ - **$t\epsilon \epsilon 44$**
 200-くらい
 200 くらい (林 2009: 55)

2.2.5. Slot 5：後置詞

チノ語の後置詞の一覧を整理すると、以下のようになる。各後置詞の機能的な差異については林 (2010) を参照されたい。ここでは要点を整理する。なお、表7では各後置詞に代表的な声調を付している。しかし、実際には文内の環境により声調は交替しうる。

表7に整理するように、チノ語の後置詞は大きく「第1群」と「第2群」の2グループに分類できる。第1群は名詞句の直後に置かれ、名詞句の格標示を主に担う。ただし、=ε44は他と振る舞いが異なるので、注意が必要である（これについては第3節で述べる）。他方、第2群は第1群よりもさらに後ろに置かれ、名詞句の情報構造上の位置づけを行う。以下、第1群・第2群の代表的な例を主として自然発話の例から引用しておく。

グループ	形式	機能等
第1群	=va55 ¹² ~ =a55	対格, 与格, 位置格
	=jə44	起点格, 比格 [優等 / 劣等比較], 共格
	=la55 <I>	道具格
	=jo44	比格 [同等比較]
	=the44	随伴格
	=ε44 ¹³	所有格
第2群	=ɣ44 ¹⁴	強調
	=la55 <II>	要約・言い換え
	=lœ44	列挙

表7 チノ語の後置詞

[第1群後置詞]

(30) a. a33ŋu55 nə35 = va55 kjo55-kə44-mɣ35.

1PL.NOM 2SG.OBL=ACC 思う-PROG-PAST

私たちはあなたのことを思っていたよ。(EL)

b. a55khrə55 = a55 u35 + ja55-xə42, lə33 jin33tʃhə44-a44.

穴=LOC 入る+行く-COND いつも 車酔いする-PART

トンネル (= 穴) に入って行ったら, (私は) いつも車に酔ってしまう。

(NU)

¹² =va55 には林 (2009) でも指摘しているが、いくつかの制約がある。1つは有性名詞にのみ付加される。また例えば、与格名詞句と位置格名詞句が共起した場合に、両方に同時に =va55 を吹かせることはできない（二重 =va55 制約）。

¹³ =ε44 は名詞句においては所有格を標示しうるほか、節末にも置かれうる。節末ではモダリティや引用節境界を標示しうる。その詳細については林 (2010) を参照されたい。

¹⁴ 蔣 (2010: 241) では「話題標識」として kɣ33 を挙げ、これが ɣ33 とも発音される、と述べている。筆者の調査した下位方言データでは kɣ33 の形式は見つかっていない。また蓋 (1986: 71-72) では主語と述語をつなぐ機能をもつ「关联助詞」として ɣ33 と lœ33 (本稿の =lœ44 に相当) を同等に取り扱っている。

- c. $\text{ci}55\text{u}44 = \text{x}44$ $\text{tjen}35\text{xua}35$ $\text{kh}\text{ə}33\text{su}55 = \text{a}44$ $\text{pu}33\text{tsh}\text{ə}55\text{-n}\text{ə}44$, $\text{ci}44\text{-ku}44$
 今 =EMPH 電話 誰 =DAT 話す -SFP これ -CLF
 $\text{a}33\text{ni}55$.
 小さい
 今は電話で誰と話して（いて）も、こんなに（携帯電話ほど）小さい。
 (NU)
- (31) a. $\text{si}55\text{mao}44 = \text{j}\text{ə}55$ $\text{a}33\text{tha}55 + \text{p}\text{ə}44$ $\text{m}\text{ə}33\text{-m}\text{j}\text{ə}55\text{-t}\text{ə}55$.
 思茅 =ABL 上 +方 NEG- 見える -EXP
 思茅から北には行ったことがない。 [=lit. 思茅から上は見たことがない]
 (NU)
- b. $\text{ŋ}\text{ə}33 = \text{j}\text{ə}44$ $\text{n}\text{.u}33\text{z}\text{ə}55$ $\text{ŋ}\text{u}33 = \text{ɛ}44$.
 1SG.OBL=ABL 年下 COP=POSS
 (あなたのお母さんは) 私より年下だろう。(NU)
- c. $\text{ji}55\text{m}\text{j}\text{ə}55$ $\text{ren}33\text{sen}55 = \text{j}\text{ə}44$ $\text{san}55\text{t}\text{chi}33$ $\text{ja}35$ $\text{l}\text{ə}44$
 去年 (高麗) 人参 =COM 三七 鶏 .OBL ずっと
 $\text{tun}35 + \text{ts}\text{ə}33\text{-m}\text{e}35$.
 煮る + 食べる -PAST
 去年 (高麗) 人参と三七を鶏と一緒に食べて。(NU)
- (32) $\text{kh}\text{x}42$ $\text{m}\text{j}\text{ə}55\text{kh}\text{ə}55 = \text{la}44$ $\text{phiŋ}33\text{k}\text{ə}55$ $\text{tsh}\text{ə}33\text{-m}\text{x}55$.
 3SG.NOM ナイフ =INST リンゴ 刺す -PAST
 彼 / 彼女はナイフでリンゴを刺した。(EL)
- (33) $\text{kh}\text{x}33 = \text{la}55$ $\text{ta}35\text{j}\text{uo}33 = \text{j}\text{ə}44$ $\text{thi}33\text{t}\text{h}\text{ə}35$ $\text{m}\text{ə}33\text{-ŋ}\text{u}44\text{-m}\text{x}44$ $\text{ŋ}\text{u}33 = \text{ɛ}44$
 あれ =すなわち 大学 =ように 同じ NEG-COP-NML COP=POSS
 $\text{t}\text{x}55\text{-}\text{ə}44\text{-p}\text{ə}42?$
 きっと -PART-RCF
 あれ (大専 [中国の教育制度上の短期大学のようなもの]) はきっと大学
 と同じではないだろうか? (NU)
- (34) $\text{kh}\text{x}42 = \text{th}\text{e}44$ $\text{je}35 + \text{ja}55$ $\text{ŋ}\text{u}33\text{-n}\text{ə}44$.
 3SG.NOM=COM 行く +しまう COP-SFP
 (彼は) 彼女と一緒に引っ行ったようだ。(NU)

[第2群後置詞]

- (35) ɕi35 jɔ33lɔ33ʃan55 = ɣ55 mɔ33-tʃə55-a44.
 ここ 悠楽山 =EMPH NEG-いる -PART
 ここ悠楽山には(大学院生は)いない。(NU)
- (36) a33tsu55, ʃɔ55tʃha55la55 = la55 mɔ55-tʃa35-po42, khun55miŋ33 = a44?
 木 草むら=すなわち NEG-ある -RCF 昆明 =LOC
 木とか草むらというのは、つまりないわけでしょ、昆明には?(NU)
- (37) ŋɔ33 = lœ44 ŋɔ33tshɣ55ʃi44.
 1SG.OBL=も 57
 私も57(歳)だ。(NU)

第2群後置詞が第1群後置詞に対して後置される例も散見される。以下に例示する。

- (38) a55tɣ44 + ŋ55 = a44 = lœ44 tʃə55-phu55-a55.
 アタ+2=LOC-も より-高い -PART
 アタたち2人のところ(の薬局)でも(薬の値段がほかの店より)高い。
 (NU)

3. 所有表現

所有表現は名詞句間の外的関係を表すものである。一般に、所有表現では所有側(possessor)と被所有側(possessee)の名詞句が関与する。統語的には所有側名詞句が従属部となり、被所有側名詞句が主要部となる。語順は所有側名詞句が被所有側名詞句に対して先行する。

3.1. 所有側が一般の名詞の場合

所有側が一般の名詞である場合、「所有側 =ɛ44¹⁵ + 被所有側」の構造をとる。すなわち、所有側の名詞句に対して、従属部標識としての所有後置詞が後接する。なお、=ɛ44は声調を交替させ、名詞句構造においては=ɛ55となることが多い。

- (39) a. a55xua33-ma55 = ɛ55 tso33 = a44 mɔ44-je44-to44-a44.
 アホア -PL=POSS 家 =LOC NEG-行く -EXP-SFP
 アホアたちの家には行ったことがない。(NU)

¹⁵ 蔣(2010: 53, 57)では所有関係を標示するのにja54を用いるとしている。この形式は筆者の調査した下位方言データでは見つかっていない。蓋(1986: 70)では所有関係を表す助詞としてɛ55を挙げている。

- b. tao35pan44 a33tha55 + pɔ44 ʃi33kuan44 ji55pre55-ɱa55 = ε55
 道班 (PLN) 上 + ほう レストラン イブレ (PSN)-PL-POSS
 ʃi33kuan44.
 レストラン
 道班の上の方のレストランはイブレたちのレストランだ。(NU)

しばしば、主要部名詞句としての被所有側が省略され、明示されない場合がある¹⁶。

- (40) a. jo33ɱa55 = ε55 tʃa35?
 3PL=POSS ある
 彼らの（洗濯する場所）はあるの？ (NU)
- b. ʃɔ33tʃha55 = ε55 ʃɔ55-nœ44.
 草むら =POSS 探す -SFP
 (葉草は) 草むらの (もの) を探す。(NU)

=ε44 が生起すると同時に、所有側名詞句の最終音節が 35 調に変調することがある。この変調も所有を標示していると考えられる。

- (41) ji55ŋ44 = ɣ44 lo55mu35 = ε55 a55ŋ44 ŋu33-nœ44.
 昨日 =EMPH 虎 .POSS=POSS 日 COP-SFP
 昨日は寅の日（暦の一種）であった。(NU)

3.2. 所有側が代名詞の場合

所有側が代名詞の場合は、一般の名詞と異なる状況を有する。代名詞は上述の表 2 のように主格形以外に、所有格形・斜格形を有する。形式上の差異の細分の程度は各人称・数によって異なる。所有標識の =ε44 を所有格形として内在させているものもある。所有格形および斜格形に対して新たに =ε44 を置く必要はない。代表的な例を以下に掲げる。

- (42) ŋɔ35 ɕi44 ki55ŋo55 + ko55tɔ44 a33ʃi55 ɱi55-khrœ42 tɕiŋ33xoŋ35
 1SG.POSS これ チノ + 服 新しい 2-CLF 景洪 (PLN)
 ju33-mɣ35.
 買う -PAST
 私のこの新しいチノ族の 2 枚の衣装は景洪で買いました。(EL)

¹⁶ 日本語の「の」や漢語普通話の「的 de」にも類似の現象が存在する。例)「これは僕のだ」「这是我的。[これ COP 1SG de]」

- (43) **ŋi55vɛ55** tso33m̩i33 = a44 = lœ44 khao42 + khao42 khœ33-nœ44,
 2PL.POSS 村=LOC=も 何+何 .RDP する -SFP
tai35-a44-po42?
 借金する -PART-RCF
 あなたたちのところ [=lit. 村] でも何をするにしても借金するんでしょ?
 (NU)

特に被所有者側が親族名詞のときはその語根と人称代名詞が直接に合成されることも多い。

- (44) ŋɔ35 a33pu55 ~ ŋɔ33pu55
 1SG.OBL 父
 私の父 (林 2009: 138)
- (45) nə35 a55mɔ44 ~ nə33mɔ55
 2SG.OBL 母
 あなたの母 (林 2009: 138)

3.3. 「名詞句拡張子」としての =ɛ44

ここで少し補足的な分析を行いたい。これまで =ɛ44 の基本的な機能としては所有標識であると考えてきた。しかし、実際には =ɛ44 が少なくとも表面的には所有を表現していない例も数多く存在する。

- (46) li55-phiŋ33 li55-phiŋ33 = ɛ55 ʃɔ33 + tɕhi55-m̩ɔ55.
 4-CLF 4-CLF=POSS 探す+持ち上げる -BEN
 それぞれの家族は4本ずつ(飲み物を)持たせた。(Hayashi 2010: 158)(NU)
- (47) ʃi33ji33tjen33 = a55 lə55-ji55 = ɛ55-la42, mi33khju55 = ɛ55?
 11時=LOC ずっと-寝る=POSS-Q 夜=POSS
 (あなたは) いつも11時に寝るのかな、夜は? (Hayashi 2010: 157) (NU)

上記のいずれの例の =ɛ44 も意味的に所有を表していない。(46) は数量詞句の直後に =ɛ44 が付加されている。しかし、所有側名詞句ではなく、飲み物を持って行くときの様態を表す副詞句的な機能を担っている。(47) の太字で示された =ɛ55 は名詞である「夜」に付加されている。所有表現としても解釈されないほか、項構造にも組み込まれない。やはり時間副詞の機能を(47) では担っている。

ここで新たに =ε44 が「名詞句拡張子」(noun phrase extensifier) であるという分析を導入してみたい。名詞句拡張子というのは名詞句の形態統語的特性を変更することなく、名詞句構造を形式的に拡張する機能辞であると考えられる。上に掲げた (46) と (47) の =ε44 に先行する要素はいずれもそれ自体で名詞句の統語的特性を有している。=ε44 が後接した後も名詞句性をそのまま維持していると考えられる。ただ、(46) と (47) ではそれぞれ主名詞となりうるような名詞句が後続しない。また項構造に組み込まれない。そのため、機能的には副詞的な機能となると考えられる。

この分析は 2.2.2 節で見た例にも適用でき、有利である。以下に再掲しよう。

(48) $\text{çi44} = \text{ε44-}\text{ṃa55} = \text{ɣ44} \text{ si35fan35} = \text{a44} \text{ tu33-mε44}$.

これ =POSS-PL=EMPH 師範学校 =LOC 読む -SFP

ここの (人) らは師範学校で (教師になるための) 勉強をする。 (=17) (NU)

(48) では =ε44 が指示詞 çi44 「これ」に後接している。そして、その直後に接尾辞の -ṃa が後続している。2.2 節の図 2 のモデルで言えば、=ε44 は Slot 5 に、 -ṃa は Slot 2 に配置される。ここで (48) に見える名詞句 $\text{çi44} = \text{ε44-}\text{ṃa55} = \text{ɣ44}$ を単線の構造としてとらえてしまうと、矛盾を来す。もちろん、この解釈の矛盾を解消するにはいくつかの方法がある¹⁷。しかし、本稿では「=ε44 が名詞句拡張子である」とする考え方が現時点で最適解であると思なす。=ε44 は çi44 の名詞性を保持したまま、新たな名詞句 $\text{çi44} = \text{ε44}$ を構成する。その新たな名詞句を「主名詞」として、接尾辞 -ṃa が後接すると考える。つまり、この $\text{çi44} = \text{ε44-}\text{ṃa55} = \text{ɣ44}$ は $[[\text{çi44} = \text{ε44}]\text{-ṃa55} = \text{ɣ44}]$ のような階層構造を内包すると解釈できる。

以上の =ε44 の分析を整理する。=ε44 を名詞句拡張子とし、先行する名詞句の統語的特性を保持する。すなわち、=ε44 を含む形式もそれ自体では名詞句と見なせる。そして、連合関係として現れる $[\text{名詞句}_1 = \text{ε44}] [\text{名詞句}_2]$ の 2 つの名詞句における意味的關係は所有関係であると考えられる。つまり、=ε44 の意味機能的なプロトタイプは「所有」であると言えよう。(40) のように被所有側名詞句である $[\text{名詞句}_2]$ は音声的に実現しないこともある。しかし、この場合は文脈により解釈が補足されうる。他方、本節であつかった項構造に組み込まれない $[\text{名詞句} = \text{ε44}]$ (46, 47) は所有表現のときの $[\text{名詞句}_2]$ が解釈上でも補足されない¹⁸。よって、単独では名詞的特性を持ちつつも、文内では副詞的に位置づけられる。

¹⁷ 他の解決法としては i) 「=ε44 が Slot 5 に入らない」、ii) 「 -ṃa が Slot 2 に入らない」などがあろう。しかし、このいずれも機能辞の全体的体系を再編する問題につながり、本稿でとる手法より不利であると思なされる。

¹⁸ 日本語の「の」は少なくとも (41) のように $[\text{名詞句}_2]$ を生起させずとも容認される点でチノ語の =ε44 と共通している一方で、チノ語の (47, 48) のような例は存在しない。そのため、日本語の「の」は「名詞句拡張子」的性格をチノ語と部分的にのみ共有しているとしか言えないだろう。

4. 連体節との関係

4.1. 連体節の概要

いわゆる連体節¹⁹と主名詞の順序は他の多くのチベット・ビルマ系諸語と同様、「連体節-主名詞」となる。連体節の標識としては節末に **-mɣ** が一般に用いられる。形式的に **-mɣ** は **-me** と自由に交替する。以下の例では連体節を [] で、主名詞を太字で示す。

(49) a. [tʃə33 + lu44-**mɣ44**] a55ŋ44 mɔ55-sui55jə44-nœ44.

生まれる + 来る -REL 日 NEG- 知る -SFP

(私は自分の) 生まれた日を知らない。(NU)

b. [nə42 a33pjo55 kjao44-**mɣ44**] ʃue33sɣŋ55-ŋa55

2SG.NOM 本 教える -REL 学生 -PL

ʃue33ʃao42 ɕa55 = e55-la42?

学校 住む =POSS-Q

あなたが教えている学生たちは学校に住んでいるの？(NU)

ただし、実際には大意を変えずに、連体節を主名詞に後置させることも可能である。

(50) a. [ŋə42 tɕi35-mɣ55] **a33pjo55** a33tɕi55.

1SG.NOM 送る -REL 手紙 少ない

b. **a33pjo55** [ŋə42 tɕi35-mɣ55] a33tɕi55.

手紙 1SG.NOM 送る -REL 少ない

私が送った手紙は少ない。(EL)

(50a) は一般的な連体節の語順である。一方で、(50b) は連体節が主名詞に対して後置されている。(50b) については話者によれば、「手紙は私が送ったのは少ない」の意味に近いようである。

4.2. 後置連体節の統語的特性に関する分析

以上、連体節の概要を見てきた。ここで重要なのは連体節標識である **-mɣ** に名詞化の機能が存在することである²⁰。以下の例を見られたい。

¹⁹ ここでいう「連体節」は節内に述語要素を有し、主名詞と意味的な連関を有する節のことを指す。それゆえ、狭義の「関係節」(適格性のある文から主名詞を取り除いた節) だけでなく、主名詞の特性を表現する節全体を含む。

²⁰ **-mɣ** の名詞化の機能に関してはすでに林 (2006) で論じている。

(51) a. piŋ35thui35-*mx*55 tʃa35-jo42?

病気退職する -NML ある -Q

(退職というのは) 病気退職するのもあるのか? (NU)

b. a55pru44 [mɔ55-xɔ55-khju35-*mx*55],

知恵おくれ NEG- しゃべる -AUX-NML

[mɔ55-lao33toŋ55 + le44-khju35-*mx*55]=a44 pi44-noe44.

NEG- 働く + 行く -AUX-NML=DAT

与える -SFP

知恵おくれでしゃべれない者や働きに行けない者に (国が補助金を)
与える。(NU)

(51)のいずれの例(51bは2つ目の-*mx*)の-*mx*(斜字)も主要部が欠落した関係節の境界を表示しているとも見ることが可能である。しかし、特に(51a)に見るように、欠落したはずの主要部を補充しにくい例も多い。したがって、-*mx*の名詞化の機能を認めておくほうが有利である。

この点をふまえると、(51b)の[]で標示された節も名詞化節の一種であると見なせる。つまり、後置連体節は「主名詞」と同格的な関係に位置づけられると解釈することもできる。

以上の点は修飾構造全体に対する説明にも重要な示唆を与える。2.2節の図2および2.2.3節で示したように、形容詞は名詞の直後に配置される。そして形容詞の引用形は統語的には名詞と同様の振り舞いをする。「修飾」構造の位置関係から再考すると、後置された「連体節」(実際には名詞化節)と形容詞の引用形のSlot 3との間の共通性を見ることができると見なせる(つまり、主名詞と従属関係にない)。以下にこのモデルを図式化しておく。

i) 後置された連体節	主名詞 同格関係 連体節 (=名詞化節)
ii) 形容詞引用形	主名詞 同格関係 形容詞引用形

図3 後置された連体節と形容詞引用形による主名詞との同格関係

図3で表示したように後置された連体節ならびに形容詞引用形については主名詞と統語的には同格関係にあるとし、意味機能的には「修飾」であるとも解釈することができると考えられる。

そして一方で、前置された連体節および形容詞の否定形についてはともに主名詞に対して統語的にも意味機能的にも真正の修飾関係にあると見なす(つまり、修飾句が主名詞に対して統語的な従属句となる)。これについては3節で見た所

有表現にも当てはまる。すなわち、所有側と非所有側の名詞句間には修飾関係があると解釈できる。これを図示したものが以下の図4となる。

i) 前置された連体節	連体節 └──────────┘ 修飾関係	主名詞
ii) 形容詞否定形	形容詞否定形 └──────────┘ 修飾関係	主名詞
iii) 所有表現	所有側 └──────────┘ 修飾関係	非所有側

図4 前置された連体節と形容詞否定形による主名詞との修飾関係および所有表現の修飾関係

このように統語的な修飾関係を図4に示したグループに限定すれば、チノ語が類型論的に主要部後置型 (head-final) 言語として一般的なタイプに入りうる。チベット・ビルマ諸語は APV 語順でありながら、関係節が主名詞に対して先行する一方、形容詞が主名詞に後続する語順をとる言語が多い²¹。この修飾構造の複雑さ²²は類型論的な位置づけをしばしば困難にする。しかし、本稿で取り扱ったように、形容詞の引用形が統語的に名詞と同様に振る舞い、主名詞と同格関係であると見なせるチノ語のような言語の場合、狭義の修飾関係を統語的なものに限定すれば、「修飾句 - 被修飾句」の順序は一般的な APV 言語の含意的普遍性の傾向に合致するものであると言える^{23/24}。チノ語について言えば、漢語との接触²⁵が日々増しているなかで、形容詞の語順も漢語と同様、主名詞に対して先行する発話²⁶が増加する傾向にある。これは形容詞引用形と主名詞の統語的關係を「同格

²¹ チベット・ビルマ諸語の語順に関する整理は Dryer (2008) に詳しい。これによると、地理的にはタイ・カダイ諸語やモン・クメール諸語などが周辺で話される東南アジア地域のチベット・ビルマ諸語で形容詞が名詞に後置される言語が多いのに対し、インド・ヨーロッパ諸語が周辺で話されるインド以東の言語では形容詞が名詞に対して前置される傾向がある。

²² チノ語を含め、チベット・ビルマ諸語は一般に副詞句が動詞に先行して修飾する。副詞句による動詞の修飾は統語的な修飾関係である。

²³ チノ語の [指示詞 名詞] の関係も統語的に「修飾関係」であると見なせば、図4のグループに入れられる。しかし、実際には大きな問題がある。2.2節で述べたように、指示詞と主名詞の間には並列関係がある。それゆえに統語的には「修飾関係」というよりも「同格関係」であると考えた方が良いかもしれないからである。一方で、図4に関わる分析は名詞同士の複合にも応用できるかもしれない。例えば、ki55ŋo55「チノ族」+tsha33zo55「人」→ki55ŋo55tsha33zo55「チノ人」、kho55pha55「男」+zo55ku55「子供」→kho55pha55zo55ku55「男の子/息子」、kho55mo44「女」+zo55ku55「子供」→kho55mo44zo55ku55「女の子/娘」などはいずれも前部要素が修飾要素で、後部要素が被修飾要素であると分析できる。いずれにせよ、指示詞と複合名詞の問題は今後のさらなる分析が必要である。

²⁴ 本稿で扱ったチノ語と方言関係にある補遺チノ語 [中国雲南省] では形容詞や数量詞句の語順は主名詞に対して前後どちらに現れてもよい。よって本稿の分析は例えばロロ・ビルマ諸語といった関連言語群内の他の言語の現象にそのまま拡張できない。

²⁵ 中国の少数民族言語において漢語との接触による文法現象への影響は非常に大きなものとなっている。李 (2005 [2012]) は中国領内のミャオ・ヤオ諸語の類別詞の類型論的特徴を扱っている。この中でミャオ・ヤオ諸語においても本来主名詞に対して後置される指示詞や関係節などが漢語の影響を受け、前置される語順も許す傾向にあることを指摘している。

²⁶ チノ語の具体例は2.2.3節の例(23)を参照のこと。

関係」から「修飾関係」に将来移行させる（すなわち、統語的關係を意味機能的な解釈にあわせて変更する）動因となると見なせるかもしれない。

5. おわりに

本稿ではチノ語悠楽方言の名詞句構造とその周辺の問題について概観した。その特徴を以下に簡潔に要約しておく。

- (52) a. 名詞句は [指示詞] [名詞 - (接尾辞)] [形容詞] [数詞 - 類別詞 (- 接尾辞)] [= 後置詞] の構造をとる。後置詞よりも前の構造はいずれか1つの要素が生起していればよい。すべてが共起する必要はない。
- b. 形容詞引用形は統語的には名詞と同様に振る舞う。主名詞に後置される形容詞引用形は、主名詞と統語的には同格的な関係を結ぶと考えられる。
- c. 所有表現においては、所有側名詞句が被所有側名詞句に対して先行する。所有側が代名詞の場合は所有格形あるいは斜格形を用いる。
- d. 連体節（関係節）は一般に主名詞に対して先行する。後置された連体節は主名詞と同格的な関係を結ぶ。

今後特に更に深い考察と分析が求められるのは =e44 の「名詞句拡張子」としての機能である。いかなる名詞も拡張しうるのか、あるいは制限があるのか、=e44 の他の機能²⁷ といかなる関係があるのかなど、チノ語の名詞句の周辺に伏在する課題はいまだ無尽のようである²⁸。

略号

A: 他動詞主語, ABL: 奪格, ACC: 対格, Adj: 形容詞, AUX: 助動詞, BEN: 受益, Ch.: 漢語由来, CLF: 類別詞, COM: 共同格, COND: 条件節標識, COP: コピュラ, DAT: 与格, EL: 作例, EMPH: 強調, EXP: 経験, FUT: 未来, HS: 伝聞, INST: 具格, lit: 直訳, LOC: 位格, N: 名詞, NEG: 否定辞, NML: 名詞化, NOM: 主格, NU: 自然発話のデータ, OBL: 斜格, OBLIG: 義務, P: 他動詞目的語, PART: 助詞, PAST: 過去, PL: 複数, PLN: 地名, POSS: 所有 (格), PROH: 禁止, PSN: 人名, Q: 疑問, RCF: 確認, RDP: 重複, REL: 関係節標識, S: 自動詞主語, SFP: 文終止助詞, SG: 単数, V: 動詞

²⁷ Hayashi (2010) でも指摘しているが、=e44 は文末に生起し、疑問などのモダリティを表しうる。

²⁸ このほかにも本稿では名詞の意味上の分類が形態統語上の問題とつながるのか否かについては触れられなかった。名詞の有生性や譲渡不可能性、また西山 (2003) の言う飽和名詞 / 非飽和名詞の区別が所有表現の振る舞いなどと関与する可能性も考えられる。今後発展的な分析を進めたい。

参考文献

〈日本語文献〉

- 加藤久美子. 2000. 『盆地世界の国家論』京都：京都大学学術出版会.
 西山佑司. 2003. 『日本語名詞句の意味論と語用論』東京：ひつじ書房.
 林範彦. 2006. 「チノ語 -mx の「多機能性」—漢蔵語と対照しながら—」『京都大学言語学研究』第25号. pp. 67-104.
 ————. 2009. 『チノ語文法（悠楽方言）の記述研究』神戸：神戸市外国語大学外国学研究所.
 ————. 2010. 「チノ語悠楽方言の格体系」澤田英夫（編）『チベット=ビルマ系言語の文法現象1：格とその周辺』pp. 269-286. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
 三上直光（編）. 2006. 『東南アジア大陸部諸言語の名詞句構造』東京：慶応義塾大学言語文化研究所.

〈漢語文献 / 汉语文献〉

- 傅爱兰. 1996. 《藏缅语 a 音节》《民族语文》1996年第3期：13-21.
 盖兴之. 1986. 《基诺语简志》北京：民族出版社.
 蒋光友. 2010. 《基诺语参考语法》北京：中国社会科学出版社.
 李云兵. 2005. 《苗瑶语量词的类型学特征》李锦芳主编《汉藏语系量词研究》北京：中央民族大学出版社。（转载于：刘丹青主编. 2012. 《名词性短语的类型学研究》pp. 286-305. 北京：商务印书馆.）

〈英語文献 / Written in English〉

- Aikhenvald, Alexandra Y. and R.M.W. Dixon. 2013. *Possession and Ownership: A Cross-Linguistic Typology*. Oxford: Oxford University Press.
 Bradley, David. 2007. "Language Endangerment in China and Mainland Southeast Asia". In Matthias Brenzinger (ed.), *Language Diversity Endangered*. pp. 278-302. Berlin: Mouton de Gruyter.
 Dixon, R.M.W. 2010. *Basic Linguistic Theory. Vol.2: Grammatical Topics*. Oxford: Oxford University Press.
 Dryer, Matthew S. 2007. "Noun Phrase Structure". Timothy Shopen (ed.), *Language Typology and Syntactic Description Vol. 2: Complex Constructions. (Second Editon)* pp. 151-205. Cambridge: Cambridge University Press.
 ————. 2008. "Word Order in Tibeto-Burman Languages". *Linguistics of Tibeto-Burman Area*. Vol. 31: 1-88.
 Hayashi, Norihiko. 2010. "The so-called possessive marker in Youle Jino". In Dai Zhaoming and James A. Matisoff (eds.), *Forty Years of Sino-Tibetan Language Studies* 《汉藏语研究四十年》. pp. 153-167. Harbin: Heilongjiang University Press.
 ————. 2014. "Youle Jino Adjectives and Their Semantic Mapping". *Journal of Foreign Studies*. Vol. 64.3: 9-22. Kobe: Kobe City University of Foreign Studies.
 Yap, Foong Ha (et al. eds.) 2011. *Nominalization in Asian Languages*. John Benjamins.

〈インターネット情報〉

- Endangered Languages Project on Youle Jino
<http://www.endangeredlanguages.com/lang/4328> [2014年12月22日アクセス]